

2026（令和 8）年 10 月 22 日
科学技術振興機構（JST）

大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 第 3 期ステージ 1 新規採択課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、大学発新産業創出基金事業「早暁（そうぎょう）プログラム」第 3 期ステージ 1 における新規採択課題を決定しました（別紙）。

本プログラムでは、大学等発スタートアップ創出に向けて、ビジネス視点を持つ事業化人材^注が、起業経験や投資経験などを有するメンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者とチームになってビジネスモデルのブラッシュアップと研究開発を推進することで、大型ギャップファンドなどの次のフェーズへの移行を目指します（参考）。

今回は 2026 年 4 月 10 日（金）から 7 月 13 日（月）まで提案募集を行い、54 件の応募がありました。それらの応募に対し外部専門家で構成された委員会による書類審査と面接審査を実施し、その結果を基に 17 件の新規採択課題を決定しました。

本プログラムの詳細については以下のウェブページをご覧ください。

<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/sogyo/index.html>

注）事業化人材

自らの事業化構想を実現するための技術シーズ（事業化を目指す上で核となる研究成果など）の探索と、技術シーズを活用したビジネスモデルの構築を行う人材。

<添付資料>

別紙：大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 第 3 期ステージ 1 採択課題一覧

参考：大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 概要

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第 1 グループ

渡部 博之（ワタナベ ヒロユキ）

〒102-0076 東京都千代田区五番町 7 K's 五番町

E-mail : sogyo@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

＜科学を支え、未来へつなぐ＞

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

大学発新産業創出基金事業 早晩プログラム 第3期ステージ1
採択課題一覧

(敬称略、氏名五十音順)

事業化人材	課題名
足立 穂則	複数大学の技術シーズを活用した海水アクアポニックス事業の創出
江塚 風也	AI チップ直結冷却モジュールによる軌道上コンピュータの熱・電力インフラ事業
岡崎 重樹	宇宙空間向け衣類の循環利用技術の開発
小沢 一仁	AI 音声解析を活用した適応型吃音 ^{きつおん} 支援基盤の事業化構想
國見 亘	渇水対策と豪雨・雹 ^{ひょう} 被害の軽減に向けた気象制御の実現
澤口 慶一郎	固体量子センサ技術を活用した量子暗号通信の実現
杉浦 真也	CHROMA LIFE PROJECT
友利 裕二	獣医療市場を足がかりとした「小口径絹人工血管」のグローバル展開事業
新倉 正啓	数理最適化による「1 秒事業性判定」——大学シーズを統合した不動産開発版 iBuyer の創出
野田 昌生	めまい診療のためのデジタル平衡機能検査・遠隔診療支援システムの実装
平泉 京祐	固体分散体化技術による難溶性成分の高吸収可溶化プラットフォーム
松嶋 宏行	国産統合型 ADCS「PULSE」による宇宙サード・プレイス市場の創出と日の丸宇宙産業の強 ^{きょうじん} 靱化
南 知果	食料安全保障に資する品種改良から生産・販売までの垂直統合モデル
森久 敦司	超低消費電力な次世代半導体メモリ技術の開発
山本 浩平	炎症性疾患における Precision Medicine の実現に向けた治療選択支援プラットフォームの創出
横山 達郎	医療データを保護したまま活用する基盤の構築
李 哲揆	気候変動下の収量・品質安定を実現する新規農業資材の事業化

大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 概要

1. 大学発新産業創出基金事業の趣旨

大学発新産業創出基金事業は、「スタートアップ育成5か年計画」（2022年11月政府発表）などを踏まえ、日本における大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援などの実施を可能とする環境の形成を推進します。

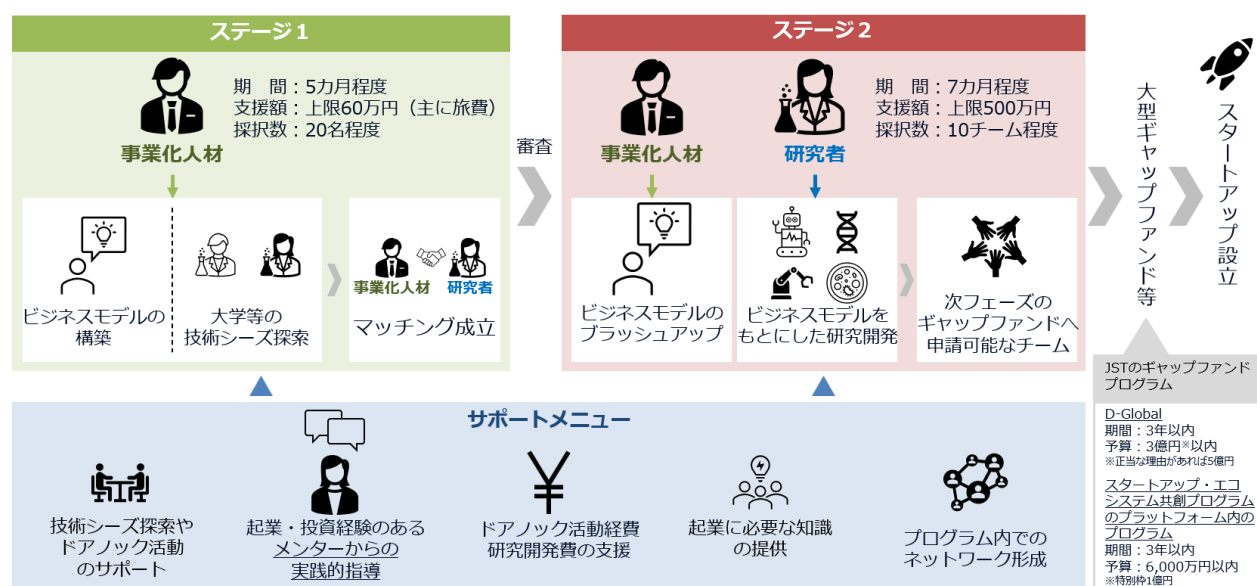
2. 早暁プログラムについて

(1) 概要

本プログラムは、ステージ1とステージ2で構成されています。

ステージ1では、自らの事業化構想を実現するための技術シーズの探索および技術シーズを活用したビジネスモデルの構築を行う事業化人材を募集します。審査により選ばれた事業化人材は、メンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者とチームアップして研究開発課題の提案を行います。提案された研究開発課題から、審査によりステージ2実施課題を選抜します。

ステージ2採択チームは、メンターによるサポートの下、事業化に向けた研究開発（科学的な検証）やビジネスモデルのブラッシュアップを行います。



(2) 活動期間ならびに研究開発期間

ステージ1 活動期間: 5 カ月程度

ステージ2 研究開発期間: 7 カ月程度

(3) 活動費ならびに研究開発費

ステージ1 活動費: 上限 60 万円

ステージ2 研究開発費: 上限 500 万円 (研究開発期間総額、直接経費)

以上